

「衛星通信・衛星放送業界の最新動向」 「日本衛星ビジネス協会 2018 年度総会」 「放送サービス高度化推進協会の記者発表会」

神谷 直亮

今月は、久しぶりに「衛星通信・衛星放送業界の最新動向」についてレポートする。次いで、「日本衛星ビジネス協会 2018 年度総会」と「放送サービス高度化推進協会の記者発表会」に触れたいと思う。

「衛星通信・衛星放送業界の最新動向」

1月から4月にかけて、衛星通信・衛星放送業界は、大きな変化を見せた。このきっかけは、低軌道周回衛星（LEO）ビジネスを牽引してきた OneWeb 社が、2月27日に遅ればせながら6機の実証試験用の衛星を打ち上げたことによる。すでにテレサット・カナダが1機、Space-X が2機の実証試験衛星を打ち上げてテストを継続しており、これで3社の足並みがそろった。このような3社競合状態に輪をかけるように、3月になってアマゾンが3,236機ものLEO衛星を打ち上げる計画を表明して業界に地殻変動を巻き起こした。詳細は、まだ公表されていないが、懐の深い巨人が動き出したことのインパクトは大きい。

中軌道周回衛星（MEO）に関しては、O3b ネットワークスが4月4日にソユーズロケットで4機の衛星を打ち上げ、合計20機による運用サービス体制を整えた。

同社は、静止衛星（GEO）による運用サービスを行っている世界で1位、2位を争うSES社の子会社で、SESグループは、名実ともにMEOとGEOを牛耳る世界最大のオペレーターとして君臨することになった。

伝統を誇るGEOの現状はどうかというと、LEO、MEOに押されて動きが鈍い。日本の放送衛星システムはBSAT-4b衛星をSS/Loral社にて製作中で、2020年の4月か5月に打ち上げを予定している。

スカパーJSATのJCSAT-17衛星はロッキード・マーチンで、JCSAT-18衛星はボーイング社で着々とインテグレーションが進んでおり、同社は今年中に打ち上げると意気込んでいる。しかし、まだこの後の新規プロジェクトがどのようなものになるのか全然見えてこない。同じようなことが香港のアジアサットやマレーシアのミアサットについても言え、アジアサット10衛星、ミアサット2A衛星の計画が頓挫している。

いずれにしても、新興のLEOとMEO事業者が勢いを付けてきており、既存のGEOを交えた「宇宙3軌道コンステレーションの時代」を迎えたと言える。

衛星通信機器の分野では、平面アンテナが注目を集めている。今年に入って目立つのは、Kymeta、Phasor Solutions、SatCubeだ。

Kymetaは、メタマテリアル技術を駆使する平面アンテナ「Kymeta u7」の売込みに余念がない。日本では、スカパーJSAT社が出資に踏み切り、販売も行っているのでよく知られる。最近では、「MWC2019（モバイル・ワールド・コンGRESS）」（2月25日~28日にスペインのバルセロナで開催）に出展して、衛星とセルラーによるハイブリッド・サービスのデモを実施して話題になった。

Phasor Solutionsは、同社独自のマイクロチップを組み込んだKuバンド対応の平面アンテナを完成させており、ケブラー・コミュニケーションズのLEO衛星との通信実証実験に成功している。

世界で最もコンパクトなポータブル型平面アンテナとして知られるSatCubeについては、本誌1月号で詳しいレポートがなされているので参照願いたい。販売総代理店のエーティコミュニケーションズは、このスウェーデン製アンテナを使って15Mbpsの送受信に成功している。

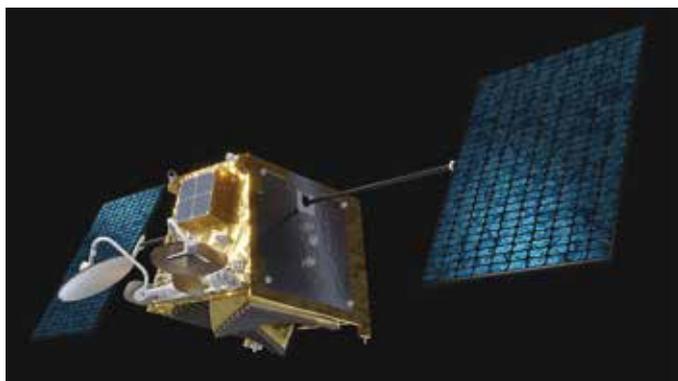


写真1 OneWeb 低軌道周回衛星ビジネスを牽引する OneWeb 社の衛星。(エアバス社提供)

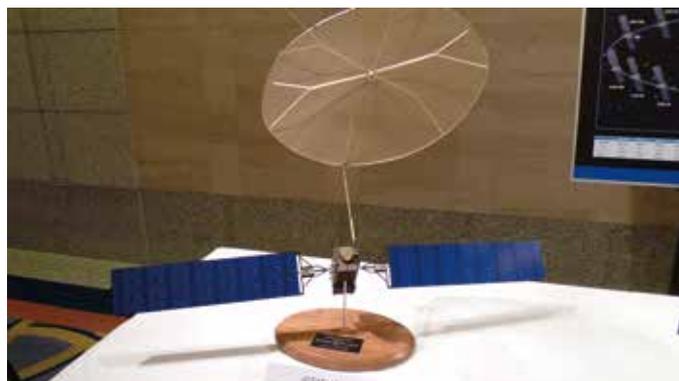


写真2 スカパーJSATがロッキード・マーチンで製作中のJCSAT-17のモデル。



写真3 アンテナ業界で最も注目を集めている Kymeta 社の平面アンテナ。



写真4 エーティコミュニケーションズが鋭意売り込んでいる SatCube 社製平面アンテナ。



写真5 放送サービス高度化推進協会は、深田恭子が登場する新 4K8K の新スポットを披露した。

「日本衛星ビジネス協会 2018 年度総会」

上述したような業界の新局面下で「日本衛星ビジネス協会 2018 年度総会」が、4月9日に三菱電機で開催され、活動報告、会計・監査報告、収支計画に次いで下記のような役員を選任が行われた。

会長：大松澤清博（スカパー JSAT）

副会長：平林洋志（放送衛星システム）

副会長：洗井昌彦（三菱電機）

事務局長：大藤英之（三菱電機）

財務部長：野口将之（三菱電機）

事業部長：対島義行（スカパー JSAT）

事業部長：高橋徳雄（KDDI）

国際部長：小野寺正道（日本電気）

会計監査人：雨宮貴史（エム・シー・シー）

理事：神谷直亮（衛星システム総研）

理事：野村修三（三菱重工業）

理事：岸洋司（KDDI 総合研究所）

いろいろな見方があると思うが、この布陣が現在の日本の衛星通信・衛星放送業界の実情を如実に示している。見当たらない会社で、ぜひ協会に加わって欲しいと思うのは、NTT ドコモとソフトバンクである。両社とも災害時に備え衛星通信網を構築してフルに活用している。

さらに、日本でもアクセルスペース、アストロスケール、インターステラテクノロジズ、インフォステラなど、宇宙・衛星に専念するベンチャー企業がたくさん立ち上がってきており積極的に協会に加わって欲しいものである。

総会の後、三菱電機の柴田泰秀執行役員、宇宙システム事業部長が登壇して「高精度測位社会の実現に向けて」と言うテーマで

プレゼンテーションを行った。同氏によれば、「4 機の準天頂衛星システムが揃って稼働を開始したことで、センチメートル級の測位が実現し、高精度 3 次元地図の作成が緒に就いた。日本の実力が世界的に認められつつある」という。具体的なアプリケーションとしては、自動運転、無人バス、除雪車、ロボット・トラクター、船舶の自動接岸などの実例が紹介され着々と活用に向かっている実情が浮き彫りになった。

「放送サービス高度化推進協会の記者発表会」

衛星放送の分野では、放送サービス高度化推進協会（A-PAB）が、4月3日に機械振興会館で記者発表会を開催した。新 4K8K 衛星放送が始まって 4 か月が経ち、最大の関心事は視聴可能機器の普及状況だ。説明に当たった A-PAB の木村政孝理事によれば、2019 年 2 月末現在の累計出荷台数は次の通りである。

直接受信新チューナー内蔵テレビ：359,000

直接受信外付け新チューナー：194,000

CATV 受信新チューナー内蔵 STB：

141,000

合計：694,000

気がかりな点は、イノベーターやアーリーアダプターの購入がひと段落して、チューナー内蔵テレビも外付けチューナーも、2月は1月より出荷台数が落ち込んで

いる。新年度が始まる 4 月に、新生活をスタートさせる視聴者の購入がどの程度進むかが当面のカギと思われる。

次いで、深田恭子が登場する新スポット、番組ガイド、番宣映像が紹介され注目が集まった。今回披露された新スポットは「はじまっていますよ」と「見てないの？」の尺 15 秒と 5 秒の 2 本で、切れの良いアクション映像で視聴者にアピールしている。

さらに、各チャンネルの番組編成の概要についての説明が行われ、番組ガイドの 4 月～6 月版が配布された。これによれば、BS 朝日は、4 月から毎週水曜に音楽番組「人生、歌がある」を 4K で放送する。BS テレ東は、4 月に時代劇「やじきた」を放送する予定で、BS フジは 4 月より毎週日曜日の 21 時から「BS フジ 4K シアター」をスタートさせるという。新企画に基づくコンテンツが増えることでウィン・ウィンの潮流が生まれて欲しいものだ。

Naokira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

SMART SNG

HD TV, 3D TV and IP-OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下（地下駐車場可）
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内（100V）海外（240V）対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.